

## 地域活性化伝道師プロフィール

分野	地域産業・イノベーション・農商工連携	○	農・林・水産業	
	地域医療、福祉・介護、教育	◎	観光・交流	○
	地域コミュニティ・集落再生	◎	環境	
	地域交通・情報通信		まちづくり	○
ふりがな		えのきだ りゅうじ		
氏名		榎田 竜路		
所属	名称	合同会社アースボイスプロジェクト		
	役職	代表社員		
連絡	住所 (職場)	〒2480007 神奈川県鎌倉市大町5-13-10		
	連絡先	e-mail	ryuji[アットマーク]ev-pj.com	
		TEL 0467-24-1740	FAX 0467-50-0280	
	連絡方法	E-Mailでお願いします		
略歴	<p>音楽家 メディアプロデューサー、メディア・コミュニケーション手法 「認知開発®」及び「序破急®」開発者 北京電影学院ニューメディアアート科客員教授 南海電影学院客員教授 秋田大学大学院理工学研究科非常勤講師 合同会社アースボイスプロジェクト代表社員 特定非営利活動法人映像情報士協会理事長 復興支援メディア隊 代表 (公社)整体協会 身体教育研究所 動法教授資格者 内閣府地域活性化伝道師 経済産業省 地域キーパーソン会議構成員 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 「経済・テクノロジー」専門委員会委員(2015~2021 年度) 中小機構 よろず支援拠点全国本部サポーター 財団法人国際文化協会 顧問 内閣官房ホストタウンアドバイザー(2017~2021 年度)</p> <p>1964 年生まれ。20 代より日本の伝統文化の底にある「型」の概念に着目。人間の感覚を有効に発生させるこの「型」の機能を研究してきた。その後、2004 年に北京電影学院の客員教授に就任したことを機に、その「型」を映画教育に応用し、認知開発®として体系化、日本人のコミュニケーション力を高める講座として、全国各地の自治体などと組んで開催し、現在までに 1500 名余の人材を育て上げている。</p>			



※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	<p>また、同手法を応用したメディア手法「序破急®モデル」を開発、これまでに 2000 本以上の映像をプロデュース・監修してきた。中小企業の連携促進や IT を活用した情報配信システム構築やブランディング等と組み合わせながら、全国に展開している。特に企業や地域に「物語」を見出し、それを価値ある情報に編集・デザインし、グローバルに展開する能力は卓越しており、東日本大震災、熊本地震後の復興や地域・中小企業の活性化に尽力している。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の「経済・テクノロジー」専門委員会委員に就任したことをきっかけに、中高生への認知開発®の普及を提唱。ホストタウン事業の一環として、中高生へのポスター制作や映像制作を指導することにより、選手と地域住民との交流の深化を図り、中高生自らが日本の底力を発見するきっかけを作っている。</p>
著作・論文等	<p>生産性の本質は「感じ方」にあった～「認知開発手法」で新たな価値を見出す力を身につける～(2022 年/電子出版/金風舎)</p> <p><a href="https://amzn.asia/d/7FvIGL9">https://amzn.asia/d/7FvIGL9</a></p>
取組概要	<p>■認知開発®力の高い人材の育成 「認知開発®講座」</p> <p>日本の伝統文化の底にある「型」の概念に着目し、研究してきた。「型」を映画教育に応用し、認知開発®手法として体系化。その手法を各地で指導し、90~100 秒の短編映像を制作させ、その過程でモノの見方が変わり、地域や企業、自分自身の新たな側面に気づくという講座。取材によりお互いを深く知ることにより地域間の連携が深まるメリットもあり、これまでに日本全国のべ50箇所以上で1000名以上の受講生を輩出して来た。実施場所:秋田県、松山市、大阪市、島根県(高等技術校、中央会)、多摩地域(八王子市、羽村市、昭島市、狛江市他)、阿久根市(阿久根市、鶴翔高校)、那覇市、鳥羽市、徳島商業高校、鹿児島県薩摩川内市(薩摩川内市、川内商工高校)、岡山県津山市(津山市、津山東高校)、行方市(行方市、麻生高校)、兵庫県市川町、奈良県吉野町(吉野町、吉野高校)・川上村、九州経済産業局、中小機構、文部科学省他</p> <p>■地域や企業の中に埋もれている「埋没資産」の発掘及び可視化</p> <p>認知開発®手法を応用したメディア手法「序破急モデル®」を開発。同手法を活用して制作や監修した映像は 2000 本に及ぶ。中小企業の連携促進や IT を活用した情報配信システム構築、ブランディング等と組み合わせながら、全国に展開している。特に企業や地域に「物語」を見出し、それを価値ある情報に編集・デザインし、グローバルに展開する能力は卓越しており、東日本大震災、熊本地震後の復興や中小企業の活性化に尽力している。</p> <p>■情報戦略立案と実行</p> <p>(例)アクティブシニアの就労・社会参画を目的とした情報提供及びプロモーション</p> <p>人生 100 年時代となり、どの地域でもアクティブシニアの活躍が期待される中、A 市ではアクティブシニアの就労や社会参画を目的に各種事業を展開中。</p>

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	<p>アクティブシニアの取材撮影を実施することで地元の高校生と、伝統食を広める活動を展開中のシニア手作り加工グループとの連携を推進、海外から料理専門家を招聘し、地元の食材や、グループが作った加工品を利用した料理教室を開催。高齢者と若者が料理教室で繋がることで、全く新しい商品の開発に成功。地域の若者とシニアの知恵を連携させる新しい試みとして注目されている。</p> <p>■芸術文化による国際交流・日本紹介・インバウンド復興事業</p> <p>「横浜学生映画祭」「横浜開港 150 周年記念映画制作事業」「Tokyo Downtown Cool Media Festival」など、アジアを中心とした映像教育機関の連携事業を実施してきた実績から、日本映画大学、北京電影学院、韓国フィルムアカデミー、台湾藝術大学、iDAProjects(豪州本部)等アジア各国・地域を代表する映像教育機関及びアーティストとの太いパイプを有している。そのネットワークや実績を元に様々な国際交流事業を実現してきた。東日本大震災後に中国中央電視台第一チャンネルのクルーを招聘し、2012 年 3 月 11 日に特別番組を中国全土で放映。番組は、その年の「アジア太平洋放送連盟」のグランプリを受賞したのもその一つ。</p> <p>そのほか、熊本地震や北海道地震の復興をインバウンドの側面から支援すべく、中国のインフルエンサーやメディアチームを招聘し、wechat 等で動画コンテンツを制作、SNS で話題となった。</p> <p>また、日本の伝統的な身体運用研究の見地から、経済産業省が 2016 年に制作し、各大使館に置かれている海外向け日本文化紹介誌『wonder! Nippon』の編集・執筆に関わる。</p> <p><a href="http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170308001/20170308001-1.pdf">http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170308001/20170308001-1.pdf</a></p> <p>さらに、2017 年9月にはシンガポールにて毎年開催されているアジア最大級のエンターテインメントイベント All That Matters2017 カンファレンス Cool Japan2020 においてパネリストとして参加、日本文化についての見識や可能性について語り、大きな反響を呼んだ。</p> <p><a href="http://www.allthatmatters.asia/">http://www.allthatmatters.asia/</a></p>
メッセージ	<p>人の知覚の入り口は直感です。直感的に共感したものとしか関わらないのが人の性質です。そしてこの直感が「ものの見方」の正体です。</p> <p>人は直感的に共感できる情報を選択し、直感のフィルターを通った情報以外、思考の対象にならず行動を喚起することはありません。</p> <p>あなたの組織や地域は「ものの見方を変える技術」を持っていますか？</p> <p>直感的な共感生み出すことができれば、「この会社で働きたい」「この地域で暮らしたい」「もっと成長したい」といったモチベーションを人の中に生み出すことができます。</p> <p>世界には直感(ものの見方)を操ることで大きなビジネスを産んでいる業界があります。それは映画業界です。映画の技術を応用して、ものの見方を変える方法——認知開発®手法——を開発しました。</p>

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メール送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

	認知開発®手法は、「物事の中に新しい関係性を見出し価値化する力」を人と組織の中に生み出し、イノベーションが起こりやすい土壌を醸成します。
関連ホームページ	<p>メールマガジン『榎田竜路の地声で行こう！』          榎田が日々感じていることを、メディア的視点、身体感覚的視点からわかりやすく解説。毎週配信中。(登録無料→<a href="https://ev-pj.com/company/profile/#newsletter">https://ev-pj.com/company/profile/#newsletter</a> )          アースボイスプロジェクト  <a href="http://ev-pj.com/">http://ev-pj.com/</a></p> <p>復興支援メディア隊  <a href="http://ramediateam.org/">http://ramediateam.org/</a></p> <p>榎田竜路 Facebook  <a href="https://www.facebook.com/ryuji.enokida?fref=ts">https://www.facebook.com/ryuji.enokida?fref=ts</a></p>
活動エリア	全国

- ※ 公開できる情報のみ掲載しています。
- ※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。
- ※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。